



▲練習に励む子供たち



# レビ加入率74%超、情報の共有化進む

## 土地改良区の合併について

**【質問】** 土地改良区の合併について、当局ではどのように把握しているか。

**【答弁】** 県の指導で昨年秋から両改良区の理事による話し合いを始め、今春2回目の会合の席で、両改良区より5名ずつの検討委員を選出した。議会明けの10月から本格的に協議する予定である。

**【質問】** 合併までの見通しについてはどうか。

**【答弁】** 合併に係る国の補助は平成23年までとなっているが、両改良区の理事長間では平成22年の合併に向けて努力するという事で合意している。

**【質問】** 両改良区に対する市からの補助金は存続する予定なのか。

**【答弁】** 内容についての検討は必要であるが、続ける考えである。

## 地産地消の連携について

**【質問】** 遠野市の農業振興策の一つに、「先進的農業の推進に取り組み、農業の基本は土づくりであることを再認識し、耕畜連携による土づくりネットワークを有効活用しながら、エコファーマーの拡大を目指す。」とある。また、「遠野市食育総合センター構想の中にも、食材の地産地消を進め有機循環型の給食を提供する。」とある。アストの活動として今後どう取り組むのか。

**【答弁】** 食育を含め有機農業の良さも理解できるが、これからまだまだ検証しなければならない点も多い。

つまり、有機肥料の種類、適正投入量、タイミング、それに対する効果的な品目、さらに品質の均一化等の課題がある。減農薬・減化学肥料による米づくりには取り組んでいるが、これから、こつこつと積上げて行く予定である。

## 宮守わさびバイオ公社の運営について

**【質問】** 宮守わさびバイオテクノロジー公社の運営は、ほとんど補助金でまかなわれていると読み取れる。遠野市の特産物としてわさびは重要な位置づけであるのは理解しているが、今後売上げを上げる等の方策を講じて、補助金頼みの運営からの脱却が必要ではないか。

**【答弁】** 宮守わさびバイオテクノロジー公社に、設立当初から現在まで、わさび生産育成のための管理運営費の補助を実施してきたが、バイオ公社の理事会等でも補助金頼みの運営を見直し、今後はバイオテクノロジー技術の他分野への応用等も含めた経営の改革のため、来年度に向けて検討を重ねているところである。

## バレエスタジオの成果は

**【質問】** バレエスタジオの指導委託料、補助員委託料の内容は。

**【答弁】** 東京のバレエスタジオと他に補助員一人と委託契約している。

**【質問】** バレエスタジオが開設されて30年になるが、その成果は。

**【答弁】** 受講者の人数も安定し、増えている。子どもの健全育成や市民の舞台への参加など芸術性にも大きな効果がある。

**【質問】** この教室はプロを育てるためのものか。

**【答弁】** プロは何百人に一人という厳しいもので、さらに上の学校へ進む必要がある。

**【質問】** 公立ということで注目を浴びたが市の負担も大きい。民間での指導等はできないのか。

**【答弁】** 保護者も多額の負担をしている。このまま継続したい。